



# 日本女医学会誌

公益社団法人日本女医学会  
復刊第251号  
2024年5月1日発行  
題字 吉岡彌生

## 巻頭言 ジェンダー平等を進めるために ～知恵者になろうではありませんか！

副会長 青木正美



ジェンダー平等を推し進めることは日本ばかりでなく、世界中の女性の共通の課題であるの言うまでもありません。しかし日本の戦後は急激な民主化・国策事業（鉄鋼・自動車産業・原子力発電・電気産業・電子産業ほか）・円高・狂乱バブル・その崩壊以来30年間低迷は続き、そこに急激な高齢・少子化が追い討ちを掛けています。

その日本が今後最も心して立ち向かって行かなくてはならない問題の第一に、巨大地震災害があります。日本列島は4つのプレート上に位置する世界で唯一の国であり、巨大プレート境界地震が周期的に起こるといって、大変特殊な国情です。

各プレート境界の大規模な地震が発生する前には、押し寄せる海のプレートによって圧縮される陸のプレート内で、地割れが頻発します。これを「活断層」と呼びます。2024年元日に起こった能登半島地震は、南海トラフ地震に繋がる活断層地震です。

2024年初頭から千葉県東方沖で起きている群発地震は、相模トラフのプレート境界で起こっているスロースリップ地震です。1923年の関東大震災をもたらしたプレート境界地震ですが、ここがクイックに動くと千葉・東京・神奈川に甚大な被害を与えることとなります。

21世紀に入り千年に一度の巨大地震の活動期に突入したといわれていますが、日本列島の長い歴史の中で、原発54基を携えて初めて迎える巨大地震多発期に直面しています。

多くの日本人、ことに男性は原発の恐ろしさ厄介さに目を見張り口を閉ざしていますが、震災による原発リスクの低減は最も重要な日本の課題です。筆者は女性こそが、この事実をしっかり向き合っ、どのように軌道修正をしなければならないか常に考えていく「知恵者」となるべき人材だと思っています。

原発を中止すると決まれば代替エネルギーは何だ？ と切り返されますが、日本固有のエネルギー源として特筆すべきものがあります。プレート境界に立地しているからこそ日本には多数の

活火山があり（プレート境界では常にプレート同士の摩擦が起こって溶けてできたものがマグマです。マグマが上昇し、水に触れ気化した水蒸気が火口から噴き出したものが火山噴火です）、です。日本ほど地熱発電に適した国はありません。

また太平洋を巡る黒潮海流は蛇行をしています。紀伊半島沖・銚子沖・マイアミ沖のたった3地点のみ定点を通過します。紀伊半島も銚子沖も沖合数km地点で時速7.4km、アマゾン川の100倍の流量で随時海流発電が可能です。黒潮の流れは地球の自転で起こるので休むことはありません。実は日本列島は再エネの宝庫なのです。日本製の地熱発電機と海流発電機はすでにアイスランドやアメリカで実績をあげています。

最後に。再び大きな原発事故が起こっても日本はどこからも借金ができません。チェルノブイリ原発事故は世界銀行が廃炉資金を貸してくれています。理由はウクライナが貧しい「債務国」だからです。日本は世界銀行に資金を拠出している豊かな「債権国」なので世界銀行の国際規約に則り、今後も日本への貸付は行われません。従って、今後次々と原発事故が起こった場合、日本の経済は完全に破綻します。

人間の力で地震を止めることはできませんが原発事故を防ぐことは可能ではないでしょうか。そのためにはより多くの「真実を知り考える人々・知恵者」が必要です。このところ次々と汚職が明らかになり男性優位社会は「カネ」だけで動いてきたことが分かりました。しかしこれからはあらゆる分野で日本社会が直面している問題の数々に知恵を絞る必要があります。多くの女性が「知恵者」になってゆけば、ジェンダーギャップは急速に改善されていくことでしょう。知恵こそがこの国を救う唯一無二の方法だからです。

そして日本女医学会こそ、「知恵者」の集まりであると私は信じてやみません。

## 日本女医学会誌（復刊第251号）もくじ

巻頭言	青木正美 (1)	北海道三大学の医学生とキャリアを考える会 講演報告	長井桂 (4)	第69回定時総会 公開講演会のお知らせ (8)
長寿社会福祉事業オンラインセミナー 楽しいオーラルフレイル予防	牛山元美 (2)	国際女医学会通信⑩ CSW68とサイドイベント開催	前田佳子 (5)	日本女医学会アーカイブ⑩ 日本女医学会五十年史 日本医学校 (続) (9)
北から南から⑨	高橋美奈子 (3)	各賞のご案内	(6)	理事会議事録 (10)
				第15回軽井沢セミナーのお知らせ (12)
				会員動静/寄附者一覧/編集後記 (12)

## 長寿社会福祉事業オンラインセミナー

「楽しいオーラルフレイル予防  
～学びから実践へ お口の健康で認知症予防～」

利根歯科診療所所長・歯科医師、日本医療福祉生活協同組合連合会理事 中澤桂一郎先生

2023年12月11日～12月18日オンライン開催

長寿社会福祉委員 牛山元美

## なぜ「楽しさ」が大切なのかが実感できる 77分

「トネシカ」(利根歯科診療所)という言葉がとても魅力的に聞こえたご講演でした。歯を抜かれた、衛生士に叱られた、など悪いイメージで語られがちな歯科ですが、「トネシカ」では、通院患者さんの6割強の方が、痛くないのにメンテナンスのために定期受診をされているとのこと。それはなぜ? とお話しに引き込まれていきました。

コロナ禍のもと、活動自粛を強いられ、特に高齢者は孤立や不活発な生活からフレイル状態を悪化させておられます。しゃべらない生活で口の筋肉が弱まり、マスクの中で口が開いたままの口呼吸が増え、一人で食べる(孤食)とよくかまないため唾液が減り、歯周病、感染症を誘発し、歯をきちんとかみ合わせることができないと転倒しやすくなり、認知症にもつながっていくことを、データと共にわかりやすく説明

されました。

「老化予防は口から始める」と言われながらも、医療費がかさむことや通院困難となる方が増え、75歳以上から歯科受療率は急激に低下します。介護施設の現場では、わかかっていても、人手不足で口腔ケアが十分にできず、肺炎を起こした人は禁食となり、義歯を外され、かむ機能を失い、口が丸いカチカチの穴になってしまうという「口の廃用」をもたらしています。

高齢者だけでなく、若い人も、一度治療費が未払いになってしまうと、その後保険診療ですら受けにくくなってしまい、悲惨な歯、口の状況になって健康を害していく人にも触れられ、「口はその国の文化を表す」という言葉が重く響きました。

さらにかまなくてもいい学校給食(水洗式食事)に話は及びます。かまないことは、むしろ子どもたちの

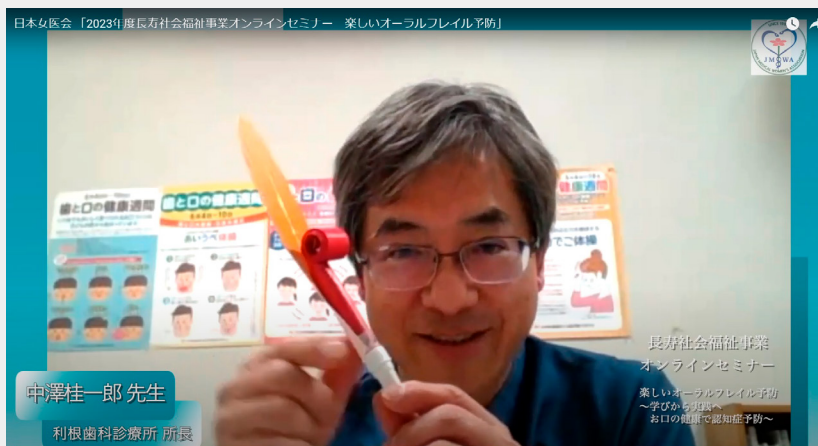
大きな問題です。「かむ」って素晴らしいことを示す「卑弥呼の歯がはいぜ」という食育ワードをご紹介いただきました。ご興味持たれた方はぜひお調べください。

たくさんご紹介いただいたオーラルフレイル予防対策。その中の「あいうべ体操」は口の筋肉の体操で、口を閉じ鼻呼吸ができるようになることで感染症になりにくくなることが研究でわかっています。

また、対策の一つの「ピロピロ」は、昔子どもたちが遊んだ「吹き戻し」と呼ばれるおもちゃですが、それを用いて、鼻呼吸、深呼吸の練習ができます。簡単にできるものから、けっこう筋力を必要とするものなど種類があるので、使う人に合わせて選べます。遊び感覚で呼吸の練習をすることができ、高齢者も子どもも楽しくオーラルフレイル予防ができる適材と言えます。

「トネシカ」で行っている8020表彰。年齢に応じて残っている歯の数で表彰されたカードを持つ患者さんのうれしそうな顔が、歯科通院を楽しまれていることを物語っています。かかりつけ歯科医師がいる人は生存率が高いというデータに納得しました。

免許証返納などで通院困難となる高齢者には、訪問歯科の活用が望まれ、そのためには、従事して



いない歯科衛生士の活用などマンパワーの充実が必要との社会への訴えもありました。

オーラルフレイル予防対策は、総合知によるまちづくりでもある、そんな多彩な視点でのお話の締めくくりは、中澤先生ご自身がピロピロを吹かれるライブで、最後まで楽しくためになる時間でした。

**鼻呼吸を日本の文化にあいうべ体操を各地の医療生協で広めています**

皆さんは鼻で息をしていますか？  
——当たり前？？  
非常に多い口呼吸、口ポカーン  
口呼吸が多くの病気の原因に



第9回

北から  
南から

## 断捨離と“もったいない”の狭間で

宮城支部  
高橋美奈子

一時期、断捨離や片づけがブームになり、またミニマリストという生き方も注目されるようになってきました。確かに、不要なもの、無駄なものを手放し、物や何かに対する執着をなくすことは、ストレスなくスッキリと暮らし生きることにつながるのでしょう。

3人の子もたちに恵まれ、小児科医としての仕事や子育てなど、その時々目の前のことに夢中になって日々を過ごしているうちに、気がついたら、わが家は物であふれかえっていました。もちろん、同じ状況でも、要領の良い片づけ上手な人なら、こうはならなかったことは承知していますが。

“片づけなきゃ”が口癖になっていましたが、ちょっとやそつとではどうにもならないことも薄々感じていて、見て見ぬふりになりつつあります。大きくなった子どもたちは“自分たちの子どもの頃のものには要らないから全部捨てて”、と言いますが、一つひとつ手に取るとあれやこれやの思い出が蘇り、つい手が止まり、これは取っておきたいなあ、となかなか進まないのはあるあるです。数ページしか使っていないノートもまだ使えるボールペンももったいなくて捨てられません。“ママが使うから”とゴミの山から拾うと、“だから片づかないでしょ”と言われますが、“物は大事にきなさい”と大正生まれの母に口酸っぱく言われ、物にも命があるか

らと最後は雑巾にして使い切るまで捨てなかった姿を見てきた昭和生まれの私は、使えるものを捨てることに罪悪感を覚えます。メルカリやら買取店やらを利用する手もありますが、とてもさばき切れそうにありません。一向に片づけが進まない私を見て、これではストレスだから本当に必要なものだけを持って別の家に引っ越したほうが良いよとまで言われる始末……。片づけられないことを夫に責められなかったのは幸か不幸か……。我が子にも大事に使うことを教えたかったはずなのにうまく伝えられなかったもどかしさもあります。

実家の亡くなった両親の遺品も、見ると思い出して涙が出てくるので見ないようにしているうちに十数年が過ぎてしまいました。末娘が大学生になって巣立っていくこの春、自分の人生も一つの節目と考えて、両親の家、自分たちの家をもう一度見直し、これからの時間をどう過ごしていくのか一度立ち止まって考えようと思うこの頃です。







# 「先輩に学ぶ！ 医師の活躍の舞台 ～研究留学や医療機器開発のリアルを知ろう～」

北海道支部 長井 桂

本年度の講演会は旭川医科大学にもご参加いただき、「北海道三大学の医学生とキャリアを考える会」として北海道の三大学合同で札幌会場、旭川会場、webのハイブリッド形式で行われた。

**岸部麻里先生**  
(旭川医科大学病院 皮膚科)

「研究留学とキャリアパス」と題して、皮膚科に入局してから留学までの過程、留学中、そして留学後についてご自身のキャリアパスを教えていただいた。

大学院卒業後に思うように働けず、悶々としていた時に参加した「ささらぎ塾」で似たような境遇の人と出会い、視野が広がると共に、研究を通して世界に目を向けることができると確信を得られたことから、留学の話が出た時にはご家族がお互いの意見を尊重し合い、最終的には娘さんと2人で留学という選択を採られた。実際に留学してみると思ったように研究できないこともあったが、せっかく留学したのだから、違う環境で何か一つでも学んで帰ろうとの思いで、プレゼン練習の猛特訓を受け、今後につながるコツを学ばれた。価値観が大きく変わったことを実感し、特に多国籍の人々との出会いで、自分がいかに恵まれた環境で研究・仕事ができているかを痛感した。また、それぞれ別の環境で必死に奮闘する家族に支えられながらの研究留学中、家族への尊敬や感謝の思いが芽生えた。さまざまな大変苦

しいことがあったが、それでも留学して本当に良かったと思えると締めくくられていた。

学生に伝えたいことは、学位取得や研究留学は自分の医師としての人生の選択肢の幅を大きく広げてくれ、さらに留学の経験は仕事面だけではなく、人としても内面的に鍛えられること、あきらめそうになった時、どうしようもなくなった時に、細々とでも良いから誠意をもって必死に頑張っていれば、必ず道が開けるというメッセージをいただいた。

**品川尚文先生**  
(KKR 札幌医療センター 呼吸器内科)

「医療機器開発における医師の役割」と題して、北海道大学の産業創出講座に加わり、呼吸器先端医療機器開発研究部門を設置するまでの過程、そしてその部門での医療機器開発を中心にお話いただいた。

気管支鏡の勉強のためにドイツに留学した際に気管狭窄に対してのステント留置等の技術を学び、世界に人脈ができたこと、留学後にインターベンション治療や学会、肺癌関連の仕事が増え、さらに、新規の機器開発の機会にも恵まれた。医療機器の開発を行う際の産学連携の利点は、医師はニーズや臨床検体・データを持っていること、現場に反映できることがあり、企業の技術と合わせることでより高い付加価値のある産業を創出することができることである。医師としては当たり前

と捉えてしまう問題点でも、企業の方からは新たな視点と捉えられ、課題点を抽出していくことができた、連携する意義を教えていただいた。

医師が医療機器開発に携わる機会は多くはないが、いろいろなことに積極的に関わることで機会は広がること、また、早期に海外へ目を向け、国際的に通用する人材を目指す必要性があることを教えていただいた。



## 国際女医会通信

The Letter from Medical Women's International Association (MWIA)



32

## CSW68 とサイドイベント開催

National coordinator (NC) 前田佳子

今年も3月8日の国際女性デーには、ジェンダーギャップ指数が極めて低い日本において「女性の権利を国際水準に」をスローガンに各地でイベントが開催されました。国連事務総長のグテーレス氏もこの日にメッセージを寄せており、その中で「女性の権利は公平で、平和で、繁栄する社会へと向かう確かな道です」と述べています。

## 国連女性の地位委員会

## Commission on the Status of Women

国連女性の地位委員会 (CSW) は国連経済社会理事国 (ECOSOC) の機能委員会で、国連加盟国、国連機関、ECOSOC 協議資格のある NGO が参加します。ジェンダー平等と女性地位向上のための取組みの進捗状況と課題について討議し、開催期間中に優先テーマに関する合意結論を採択します。

2024年のCSW68は3月11日～22日の日程で開催されます。優先テーマは「ジェンダーの視点からの貧困撲滅、機構強化、資金動員によるジェンダー平等達成と女性・女兒のエンパワーメントの加速」、検証テーマは「ジェンダー平等及び女性と女兒のエンパワーメントのための社会保護システム、公共サービス及び持続可能なインフラへのアクセス (第63回優先テーマ)」です。

合意結論の草案 (ゼロドラフト) は委員会開催前に公開されています。今回の重要なポイントは「女性・少女の貧困の根絶に向けた支出のために財政余力を拡大すること」つまり「女性に投資を」です。

Zero draft [https://www.unwomen.org/sites/default/files/2024-02/csw68\\_agreed\\_conclusions\\_zero\\_draft\\_5\\_february\\_2024.pdf](https://www.unwomen.org/sites/default/files/2024-02/csw68_agreed_conclusions_zero_draft_5_february_2024.pdf)



## サイドイベントの開催

日本女医会が加盟している国際婦人年連絡会と国連 NGO 国内女性委員会は JAWW と共に毎年サイドイベントを開催しています。COVID-19 パンデミック以降はオンラインで開催しており、今年もオンライン開催といたしました。

## テーマ

「Women's Multidimensional Poverty Challenges and

Grassroots Responses: Insights from Japan, Sri Lanka, and Guatemala (女性の多様な貧困課題と草の根の対応—日本・スリランカ・グアテマラからの報告)」

**開催日時** 3月15日 日本時間 21:00～22:30、  
NY 時間 8:00～9:30

**モデレーター** 山本由美子、岡山大学グローバル・ディスカバリープログラム／大学院社会文化科学研究科准教授、CSW68 専門委員

**パネリスト①** 松元ちえ、女性による女性のための相談会実行委員会、アンフィルター (unfiltered. coop) 代表

**パネリスト②** Dr. Sepali Kottegoda, Director Programmes, Women's Economic Rights and Media, Women and Media Collective, Member, Steering Committee APWW

**パネリスト③** 塚本明広、JICA「移民送金を通じた金融包摂推進アドバイザー」事業業務主任者

CSW68 は合意結論が採択されました。

報告書の結論を要約すると、『女性と女兒の貧困に対処するには、安定した資金提供が必要です。これを達成するために以下が必要です。開発資金に関する約束にジェンダーの視点を組み込む。貧困をなくすために財政余地を拡大する。公的機関の説明責任を強化する。女性の完全、平等、効果的かつ有意義な参加を確保する。多次元の貧困データの質と可用性を向上させる。持続可能な経済と社会に向けた新たな開発戦略を促進する。』

報告書

<https://undocs.org/Home/Mobile?FinalSymbol=E/CN.6/2024/3&Language=E&DeviceType=Desktop&LangRequested=False>



## 第45回 日本女医会学術研究助成のご案内

日本女医会では医学の発展・向上に寄与する研究を行っている会員の方々の学術研究に対し、助成事業を行ってまいりました。平成24年4月に公益社団法人に移行いたしましたので、第33回より日本国内在住の女性医師を対象として優れた研究に対して、助成を行うこととなりました。つきましては、希望者は下記応募要領にしたがって当会宛てにご申請くださいますようお願い申し上げます。また、平成28年度からは、山崎倫子先生のご遺志により寄附された基金1,000万円から、若手医師の研究助成を行う「山崎倫子賞」を設立いたしました。学術研究助成応募者の中から、優秀と判断された1名に山崎倫子賞を授与いたしております。

### 記

- 1. 助成の趣旨** 後進の研究助成を図り、医学分野の発展、向上に寄与する事を目的とする。
- 2. 助成金額** 1件30万円まで、採択件数は3件以内。うち優秀と判断された1件には山崎倫子賞として、50万円を助成する。
- 3. 申し込み手続き**
  - 1) 応募資格**
    - ①申請締切時において満45歳未満の日本国内在住の女性医師。
    - ②同一研究課題により他機関の助成を申請している、または助成を受けている場合は、当研究助成の申請を認めない。
    - ③助成を受けた後に上記に抵触することが判明した場合には、助成金の返還を求められることがある。
  - 2) 助成期間** 原則1年間。同一人が重ねて申請をする場合は5年以上の間隔をおくこと。
  - 3) 応募方法** 日本女医会ホームページ (<http://jmwa.or.jp/> 学術研究助成) より所定の用紙をダウンロードして作成し、電子メールに添付して応募。宛先：(公社) 日本女医会 office@jmwa.or.jp
  - 4) 申込期限** 2024年12月25日必着。
  - 5) 選考及び発表方法** 選考委員会において選考の上、日本女医会理事会で決定し、申請者宛てに通知する。
  - 6) 助成金の贈呈** 2025年5月18日開催の第70回日本女医会定時総会（開催地未定）の席上。被授与者が必ず出席すること（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。受賞のスピーチを日本女医会HPにて公表される会誌 (<http://jmwa.or.jp/> 日本女医会誌) に掲載することを承諾する。
  - 7) 被授与者の本会に対する報告**
    - ①2026年9月4日までに収支報告書を提出し、研究経過報告として「学術研究助成受賞者の軌跡」を会誌に寄稿することを承諾する。
    - ②被授与者は、本助成金授与後3年以内に本助成金を受けた研究であることを明記した論文のPDFを提出し、日本女医会誌等に掲載することを承諾する。
  - 8) 問い合わせ先** 公益社団法人日本女医会事務局 (担当：学術部)

## 第10回 公益社団法人 日本女医会 学術研究助成 溝口昌子賞

平成25年に逝去された溝口昌子先生のご遺志により寄附された基金から、女性医師のキャリアアップと永年勤続を目的として設立されました。

### 記

- 1. 助成の趣旨** 女性医師のキャリアアップと永年勤続を目的とする。
- 2. 助成金額** 1件30万円とし、原則毎年1名に授与する。
- 3. 応募資格** 申請時に満45歳以上55歳未満で、学位を有し、大学病院または総合病院等に臨床の常勤医として役職に就いて勤務しており、臨床、研究、教育、社会活動等を行っている日本国内在住の女性医師（教授は除く）。
- 4. 提出書類** 1) 所定の様式の履歴書 2) 研究に関する自著を含む共著論文 2編 3) 公益社団法人日本女医会会員（選考委員を除く）2名の推薦状 4) 誓約書（申請内容に偽りのない旨を明記） 5) 業績目録 以上の書類をレターパック、または日本女医会事務局まで簡易書留で郵送する。
- 5. 申込期限** 2024年12月25日（当日消印有効）
- 6. 表彰** 2025年5月18日開催の第70回日本女医会定時総会（開催地未定）の席上。被授与者が必ず出席すること（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。受賞のスピーチを日本女医会HPにて公表される会誌 (<http://jmwa.or.jp/> 日本女医会誌) に掲載することを承諾する。
- 7. 問い合わせ先** 公益社団法人日本女医会事務局 (担当：学術部)



## 日本女医会 荻野吟子賞 候補者募集のご案内

公益社団法人日本女医会は、女性として初めて公に医師の資格を与えられた荻野吟子先生の偉業を称え、その名を永久に伝え、女性の地位向上を図ることを目的として、「日本女医会荻野吟子賞」を制定しています。

### 募集要項

- 対象** 独自の活躍をもって、女性の地位向上や市井の医療に著しい貢献をした女性医師（原則として1名）に与える。但し、同賞を受賞したことのある者、及び日本女医会吉岡彌生賞を受賞したことのある者は応募することはできない。
- 候補者の推薦** 日本女医会員による推薦が必要である。
- 提出書類** 所定の様式の履歴書、推薦状を日本女医会事務局までレターパックまたは簡易書留で郵送する。
- 申込期限** 2024年12月25日（当日消印有効）
- 選考及び発表** 選考委員会において選考の上、申請者宛に通知する。
- 表彰** 2025年5月18日開催の第70回日本女医会定時総会（開催地未定）において行い、賞状、記念プレートおよび副賞を授与する。副賞は5万円とする。被授与者が必ず出席すること（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。受賞のスピーチを日本女医会 HP にて公表される会誌（<http://jmwa.or.jp/日本女医会誌>）に掲載することを承諾する。
- 問い合わせ先** 公益社団法人日本女医会事務局（担当：庶務部）

## 日本女医会 吉岡彌生賞 候補者募集のご案内

公益社団法人日本女医会は、日本における女性医師の育成の礎を築いた吉岡彌生先生の偉業を称え、その名を永久に伝えるとともに、女性医師の医学、または社会への貢献を図ることを目的として「日本女医会吉岡彌生賞」を制定しています。

### 募集要項

- 対象** 公益社団法人日本女医会の最高の賞として、次のいずれかに該当する女性医師各1名に授与する。  
1) 医学に貢献した女性医師 2) 社会に貢献した女性医師。但し、同賞を受賞したことのある者、及び日本女医会荻野吟子賞を受賞したことのある者は応募することはできない。
- 候補者の推薦** 日本女医会員2名以上の推薦が必要である。
- 応募方法** 所定の様式の履歴書及び推薦状と、下記の内容の業績目録を添えて、日本女医会事務局までレターパック、または簡易書留にて郵送する。  
**業績目録**  
1) 「医学に貢献した女性医師」に応募の方  
● 査読のある欧文の医学雑誌に掲載された論文のうち筆頭著者3編以上を含む5編の全文  
● 上記以外の査読のある国内外の医学雑誌に掲載された代表的な論文のうち筆頭著者7編以上を含む10編の論文名、著者名と抄録  
2) 「社会に貢献した女性医師」に応募の方  
● 国内外での医療・保健・福祉活動、女性医師支援および女性医師の地位向上等における業績報告書  
1) 2) に共通の業績  
● 国内外の学会等での特別講演、招聘講演の演題名、講演年月日、学会名、開催地等  
● 国内外での活動および国際貢献に対する受賞歴：賞の名称と受賞理由、授与者名及び団体名、受賞年月日
- 申込期限** 2024年12月25日（当日消印有効）
- 選考及び発表** 選考委員会において選考の上、申請者宛に通知する。
- 表彰** 2025年5月18日開催の第70回日本女医会定時総会（開催地未定）において行い、賞状、楯および副賞20万円を授与する。被授与者が必ず出席すること（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。受賞のスピーチを日本女医会 HP にて公表される会誌（<http://jmwa.or.jp/日本女医会誌>）に掲載することを承諾する。
- 問い合わせ先** 公益社団法人日本女医会事務局（担当：庶務部）

## 第7回 山本纈子賞のご案内

平成29年に逝去された山本纈子先生のご遺志により寄附された基金を元に、海外におけるグローバルに活躍する若手女性医師をサポートするために設立されました。

### 募集要項

- 1. 対象** 申請時に満45歳未満で、大学病院または総合病院などに常勤医として勤務しており、1年以内に海外留学または海外学会報告などの学術活動を行っている、または1年以内に行う予定の日本国内に在住している女性医師（教授は除く）。臨床・基礎医学の別は問わない。
- 2. 助成金額** 原則 一人あたり10万円
- 3. 申し込み手続き** 1) 下記の書類を揃えて公益社団法人日本女医会事務局までレターパック、または簡易書留にて郵送する。  
 ①申請書と履歴書（<http://www.jmwa.or.jp/山本纈子賞> より所定の用紙をダウンロードして作成して下さい） ②学会の抄録 ③研究に関する自著を含む共著論文2編 ④日本女医会会員（選考委員を除く）2名の推薦状 ⑤提出書類に関する誓約書（申請内容に偽りのない旨を明記）  
 ⑥業績目録  
 2) 申込期限 2024年12月25日
- 4. 授与** 2025年5月18日開催の第70回定時総会（開催地未定）の席上。被授与者が必ず出席すること（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。受賞のスピーチを日本女医会HPにて公表される会誌（<http://jmwa.or.jp/日本女医会誌>）に掲載することを承諾する。
- 5. 問い合わせ先** 公益社団法人日本女医会事務局 （担当：学術部）

### 公益社団法人日本女医会 第69回定時総会 公開講演会

## 『税の取り方と使途 ～医療などの社会保障充実の財源～』

病気、災害、失業等、不幸は突然やってきます。個人を責めることはできません。この2年間の後期高齢者医療制度改定では、加入者の4割の保険料が増え、財政制度等審議会は、診療報酬について「マイナスが適当」と提言しています。社会保障が切り捨てられる今日の風潮の中、能力に応じた税負担と生存権を保障するために税を使用することこそが納税者の権利であることを、浦野先生に明らかにしていただきます。ぜひご参加ください。

- <日時> 2024年5月19日（日）14:10～15:30
- <会場> 浜松町ビルディング 22F シミック L&D Rooms 1（東京都港区芝浦 1-1-1）
- <講師> 税理士 浦野広明氏 立正大学法制研究所特別研究員 日本民主法律家協会副理事長  
不公平な税制をただず会共同代表

#### <参加方法>

現地参加～どなたでもご自由に参加いただけます。オンライン参加ご希望の方は、日本女医会のホームページの参加申し込みページにてお申し込みください。

参加申し込みページ URL : <https://www.jmwa.or.jp/event-details/69meeting>

短縮 URL : <https://bit.ly/3Ujc9Dc>

開催日時が近づきましたらEメールにて視聴用URLをお送りいたします。



左のQRコードからもお申し込みいただけます。  
詳しくは同封のチラシをご覧ください。  
※ QRコードからの場合 スマートフォンのQRコードリーダーから、左のQRコードを読み取ってお申し込みください。

公益社団法人日本女医会 第69回定時総会  
online 公開講演会  
**税の取り方と使途**  
～医療などの社会保障充実の財源～

病気、災害、失業等、不幸は突然やってきます。個人を責めることはできません。この2年間の後期高齢者医療制度改定では、加入者の4割の保険料が増え、財政制度等審議会は、診療報酬について「マイナスが適当」と提言しています。社会保障が切り捨てられる今日の風潮の中、能力に応じた税負担と生存権を保障するために税を使用することこそが納税者の権利であることを、浦野先生に明らかにしていただきます。

**視聴無料**

2024年  
**5月19日**(日)14:10～15:30(開場 13:45)

【参加方法】  
現地参加：会場へ直接ご来場ください。  
オンライン参加：ご希望の方は日本女医会のホームページのイベント予約ページにてご登録ください。配信日時が近づきましたらEメールにて視聴用URLをお送りいたします。詳しくは裏面をご確認ください。  
(申込期間：3月18日～5月17日)

**講師**  
立正大学法制研究所特別研究員  
日本民主法律家協会副理事長  
不公平な税制をただず会共同代表  
**税理士 浦野広明**  
池田経理事務所として税理士報酬、『税務相談』のたまたま『！』Q&A 納税者のための税務相談（税日本出版社刊）など著書多数、テレビでの税務解説が好評。

会場：浜松町ビルディング 22F シミック L&D Rooms 1  
東京都港区芝浦 1-1-1

主催・お問い合わせ先：  
公益社団法人日本女医会  
事務局  
jmwa inc 株式会社  
シミックホールディングス株式会社

〒101-0001 東京都港区芝浦1-3-14  
03-6447-0820  
FAX 03-6447-0821  
E-mail office@jmwa.or.jp



J M W A A R C H I V E S

日本女医会  
アーカイブ #017

日本女医五十年史 日本医学校 (続)  
特筆すべき人々 万緑叢中紅一点

日本女医会雑誌 第117号 昭和19年(1944)年2月28日刊

太平洋戦争による用紙不足に苦勞する中、多川澄が執筆した石川(鈴木)松枝をご紹介します。

日本医科大学の前身である日本医学校を首席で卒業した石川(鈴木)松枝は、新聞に掲載された縁で、アメリカにいた日本人男性との結婚のため渡米し、診療活動を続けますが、離婚し、一人アメリカに残った後に自ら命を絶ってしまいます。当時、女性は医師としても妻としても生きていくのが困難な時代でした。

医学部(医学科)入学者選抜における女性入学者は2023年度の今、4割に達し、女性医師が半数以上となる日も遠くないと言われています。喜ばしい一方で、労働環境の整備をしなければ、多くの女性医師たちが結婚や出産というライフイベントをきっかけに辞めざるをえなかったり、キャリアを築けなかったりします。これからは女性も男性も働きやすい環境を一緒に作っていかねばなりません。

なお、原稿中の用語・語句につきましては、当時のままとさせて頂いておりますので、ご了承ください。



◀石川(鈴木)松枝先生  
(コピー資料からの写真しかありませんが、より鮮明な写真をお持ちの方がおりましたら是非、当会までご連絡ください)



現在の日本医科大学▶

日本女医五十年史  
日本医学校(続) 特筆すべき人々  
万緑叢中紅一点

前に東京女医学校の項にも記したやうにまだ醫専にならぬ各種学校と呼ばれる時代には、國家試験による資格が物を云ふので学校の卒業試験といふものはあまり權威を持たなかつたけれども、文部省の開業試験を受ける前に一種の小手調べを受けて見る氣持で、(又中には田舎へ歸つて東京の醫学校を卒業したといふ記しに大きな免状を貰つて歸る目的の人も無いはなかつた。

又本當の國家試験の免状の小さいのに引きかへてこいふ学校の講習會の修了證書や卒業免状は素晴らしく大きなもので、各科の講師の名がズラリと書き連ねてあつた) 受けて見る者も相當あつた。そしてこの時の試験によつて相當自信が付き、これで優秀な成績をおさめたものは大抵國家試験にも間違ひなくパスした。

明治四十二年三月の学校の卒業試験の時である。六十五名の及第者の六十四名までは男子で、女子はたしか一人しか受験しなかつたと思ふが、その首席はたつた一人の女生石川松枝であつた。しかも今迄に前例のない九十八点といふ好成绩で、校内でも大評判となつた。

此石川松枝といふ人は新潟縣中頸城郡新井村の出身で醫者の娘であるが、幼時は神童と云はれた位非常に俊敏な頭の持主であつた。郷里では學才を見込まれて小學の代用教員などしてゐたが草深い田舎に埋もれるのを潔しとせず、箠を負つて上京し日本医学校に這入つたのは廿二歳頃であつたが、此時すでに自宅に在つて獨學で前期の免状は持つてゐた。

そして在學一年で後期學科を修得し、此卒業試験と同時に文部省の後期試験をも受験して合格し、醫師の資格を得て仕舞つた。

ところでおさまらぬのは偶々この優秀な一女生の爲めに男子の面目を踏み潰された他の卒業生の

連中である。石川松枝が卒業式の答辭を読むなら當日は出席せぬといふことに決議した。

磯部幹事は彼等に訓して曰く「君等はすでに彼女に力に於て負けたのではないか。負けたことを自認し乍ら、負けてから出席しないなどは男らしく無いぢやないか」と。そこで六十餘名も仕方なくしぼへ出席して、文部大臣其他の列席の下に、松枝女史が朗々と読み上げる答辭を、内心癪にさはり乍ら我慢して聞いてゐた光景はさぞ見物であつたらうと思はれる。

此松枝女史は天才に屢々見る多情多感の持主で、従つて種々の逸話もあつたやうであるが、彼女は容姿も美人といふ程ではないが醜からず、思想的にも早熟と思はれる程進んだ頭の持主であり、文才も豊かで、歌など其頃流行つた石川啄木風の感傷的な歌を澤山詠んでゐた。

いち早く彼女の才色に牽き付けられたのは同時に卒業した男生の土屋某であつた。見るからに實直さうな青年であつたが、おそらくそのころ高い理想の夢を見てゐた彼女にとつては一顧だも價しなかつたであらう。然し、此青年の素僕さを見込んだ彼女は、巧みにその矛先を振向けさせて、田舎出の善良な娘である自分の妹にあてがつたことは、流石に頭のいい彼女であると思はしめたのであつた。

彼女は一時郷里に歸つて父の手助けをしつてゐたが、昔風の頑固な父とは意見の合ふ譯もなく間もなく又上京して、母校の附屬醫院で醫員として働いてゐた。然し時々男醫の誰彼と衝突したりするので、あまり愉快な生活は得られず煩悶することもあつたやうであつた。

處が偶々彼女が優秀な成績で醫師となつたことが萬朝報紙上に寫真入りで掲載されたのが機縁となつて、(そのころはまだ女醫は珍らしいので時々特色のある人は新聞に書かれたものである) そのころ北米チャトルにゐた愛媛縣人鈴木康三といふ人と文通を初め、遂に寫真結婚まで話が進展して行つた。北米から時々指環だの、金時計だ

の送られて來たりしては、透徹した頭の持主であり、理性も相當に働く廿四五歳の彼女ではあり乍らも、多分にローマンチックな夢にも馳られたことであらう。遂に婚約の段取りとなり、アメリカ通ひの××丸に身を委ねて單身渡米したのは明治四十四年であつた。

渡米前に述懐してゐた言葉に、「先方の人物は小さな人間で、あまり大した期待は持つてゐない。然し内地にゐても語らないし、父も老年であり、小さい弟妹の爲めにも働かねばならぬから渡來するので、徒らにローマンチックな夢を追うて行くのは無い」と云つて居た。

渡米後磯部檢三氏の紹介でチャトルの渡邊醫院に助手として働いてゐたが、後カリホルニアのフロリンといふ農園に働く邦人の診察に従事したりした。

夫なる鈴木といふ人とは性格的に合はず結婚は遂に不幸に終り、鈴木とは離別し、鈴木は内地に歸つたが其後結核で病死した。

彼女は其後桑港に渡りドクトル試験を受けたといふ話も聞いたが、大正七年頃自殺したとの話を傳へて來た。自殺の原因はドクトル試験に關係があるとも、戀愛問題にもからまつてあるともいはれる。

兎も角非常な天才であつたが、不幸な結婚の爲悲惨な末路に終つたのは惜しいことであつた。彼女の遺した歌の中から數首を選び。

うたはなん恨みに燃ゆる火やけむり  
噴火口にも似たるわが歌  
思ひ捨て、金の小鹿はまだ遂はず  
逐はねど淋しひとり行く旅  
五月晴れ牧場を渡る朝の風  
日光浴の肌なで、吹く

(文中敬称略。引用箇所は一部常用漢字の表記としました。文責：広報部)

公益社団法人日本女医会  
**(((理事会議事録)))**  
 2023年度第5回

1. 日時 2023年11月18日(土)  
午後3時30分～午後5時30分
2. 場所 ZOOMによるオンライン会議
3. 出欠席者
  - 1) 出席者
 

理事	前田佳子	青木正美
	藤谷宏子	磯貝晶子
	牛山元美	木村友美
	塚田篤子	野村明子
	樋渡奈奈子	宮坂晴子
	望月善子	芳川た江子
  - 2) 欠席者
 

理事	大谷智子
監事	村上京子

## ●継続審議事項

1. 創立120周年記念事業について (承認)  
塚田理事より、前回の理事会以降の寄附金明細と現在までの収支が報告された。
2. 第69回定時総会について (継続)
  - ・事務局より、総会会場候補であるシミックホールディングス(株)の会議室についての下見報告が行われた。
  - ・前田会長より、公開講演会の講師候補として、税理士の浦野広明氏についての紹介があり、承認された。
  - ・青木副会長より、懇親会とエクスカッションを兼ねたサンセットクルーズを開催し、浜松町付近のホテルを1か所決める予定であることが報告された。
3. 2024年度ブロック懇談会について (継続)  
前田会長より、候補地の交渉中であることが述べられた。
4. 「日本の女性医師デー」申請について (承認)
  - ・前田会長より、申請予定であることを日本医師会に伝えた旨が述べられ、荻野吟子の誕生日である4月4日として申請することが、承認された。
  - ・大関監事より、スケジュールについての質問があり、第69回定時総会で会員の承認を得た後、その翌年の4月4日を第1回とすることが確認された。
5. 賛助会員希望の企業への返答、賛助会員申込書の修正、確約書の追加及び規定の改正について (承認)  
前田会長より、賛助会員希望の企業についての確認が行われ、賛助会員規程及び賛助会員申込書の修正案、確約書の追加案が発表され、承認された。また、歯科医については、賛助会員(個人)として入会を提案する旨の報告があった。

## ●審議事項

1. 2024年度事業計画案および予算案について (継続)
  - ・芳川理事より、2024年度の事業計画案が発表され、承認された。
  - ・塚田理事より、2024年度予算案が発表され、各部・各委員会に対して、次回1月の理事会までに確認するよう呼びかけがあった。
2. 2024年度役員選挙日程等について (承認)  
前田会長より、役員選挙の日程と選挙管理委員候補の発表があり、承認された。
3. 学術研究助成細則の改正について (承認)  
前田会長より、2014年度第3回理事会で承認された学術研究助成細則についての説明があり、報告の掲載と論文の提出についての改正案が提案され、承認された。
4. 女性の健康支援事業講演会について (承認)  
前田会長より、講師候補の方の日程が本年度中に取れないため、次回以降に延期となった報告と、本年度の候補として共生ネット共同代表の原ミナ汰氏についての紹介があり、承認された。
5. HP未掲載の会誌バックナンバーの掲載と軌跡のリンク作業について (承認)  
前田会長より、日本女医会HP未掲載の会誌バックナンバーや第35回以前の学術研究助成報告リンクについての状況説明があり、HPへの掲載業務を外注化することが承認された。
6. 北海道女医会からの公開講演会助成申請について (承認)  
望月理事より説明があり、令和5年12月17日開催予定の公開講演会に対して、5万円の助成が承認された。
7. オンライン講演会への広告掲載について (承認)
  - ・前田会長より、賛助会員希望企業から公開講演会の後援希望があり、オンライン公開講演会の動画に有料広告を入れる提案があった。
  - ・大関監事より、視聴者に広告であることが分かりやすくすべきという指摘があった。
  - ・広告であることを明示した上で、公開講演会動画に収録することが承認された。
8. 国際女医会会費について (承認)  
前田会長より、円安の影響で本年度の会費は予算を超える旨の説明があった。
9. 2023年9月・10月会計報告承認 (承認)  
野村理事より説明があり、2023年9月及び10月の会計報告が承認された。
10. 2023年度第4回理事会議事録承認 (承認)  
宮坂理事より説明があり、2023年度第4回理事会議事録が承認された。
11. その他

- 1) 事務の寸志について (承認)  
パートタイム勤務の事務員1名に4万円、業務委託員に6万円払うことが承認された。
- 2) 2024年役員新年会について (承認)  
宮坂理事より説明があり、理事会終了後、昨年と同じ外苑前の店で17時30分から開催予定となった。

## ●報告事項

1. 各部、NC報告
  - 1) 庶務部報告
    - ・芳川理事より新入会員と会員動静についての報告があった。また、高齢会員の会費について提案があった。
  - 2) 広報部報告
    - ・樋渡理事より、会誌250号についての報告があり、昨年度から役員も加わった年頭所感執筆の呼びかけがあった。
  - 3) 学術部報告
    - ・望月理事より、現在までの応募と会誌未掲載の学術研究助成報告の状況報告があった。
  - 4) IT部報告
    - ・磯貝理事より、定時総会の公開講演会についての提案があり、広告収入や前田会長が公開講演予定者と内容の打ち合わせを行った上で、改めて検討することとなった。
  - 5) ナショナルコーディネータ報告 (前田会長)
    - ・前田会長より、9月のMWIAニュースレターに、6/25に佐賀で開催されたブロック懇談会と7/28到北京行われた「日中笹川医学奨学金制度の35周年記念式典」への出席について掲載した報告があった。
2. 各委員会報告
  - 1) ダイバーシティ推進委員会
    - ・木村理事より、アンケートを含む第16回キャリア・シンポジウムの結果についての説明があった。
  - 2) 長寿社会福祉委員会
    - ・芳川理事より、12月開催予定の2023年度長寿社会福祉事業オンラインセミナーの進行表の説明と参加登録状況等の報告が行われ、登録の呼びかけがあった。
  - 3) 女性の健康支援事業委員会 (樋渡理事)
    - ・樋渡理事より、予定していた講師のスケジュールが取れなかった件でお詫があり、次年度は、改選後の新役員が改めて対応することになった。
  - 4) 小児救急事業委員会
    - ・藤谷副会長より、HPVワクチンのキャッチアップ接種情報をHPに掲載予定であることが述べられた。また「どうしよう子どもの救急」在庫の用途について、役員に意見を求められた。
    - ・青木副会長より、日本女医会の意義の向上を図るため、前役員に「どうしよう子どもの救急」をHPに無料

公開する提案をしていたことが述べられ、委員会でさらに検討することになった。

#### 5) HP制作委員会

前田会長より掲載報告があった。

#### 3. 対外的団体活動

前田会長より以下の報告があった。

##### 1) 国際婦人年連絡会

・ 常任委員会が9/20、10/18、11/15に開かれ、「原発政策を推進するためのGX脱炭素電源法の可決成立に強く抗議し撤回を求める要望書」、「マイナンバーカードの廃止を求める要望書」を出し、「イスラエル・ガザ紛争への声明」をHPに掲載した。

・ 9/30に婦選会館で開かれた「山口みつこさんを偲ぶ会」に出席。

・ 10/28開催の「婦団連創立70周年記念のつどい」で挨拶。

##### 2) 9/22 国連 NGO 国内女性委員会 役員会

・ 9/26に第78回国連総会政府代表顧問送迎会が開催。

・ 11/1にHP開設 (<https://un-ngojpwomen.org>)。

##### 3) 内閣府男女共同参画連携会議

・ 11/15にオンラインで開催され、グループ討議に参加。

#### 4. その他

1) 前田会長より、kay me 株式会社の賛助会員入会報告があった。

2) 前田会長より、第2回理事会で寄付が決まった山田火砂子監督の映画「わたしのかあさん」についての説明が行われた。

3) 前田会長より、新しい経理担当事務員である磯部光伸氏の紹介が行われた。

4) 故・桑原明子先生へのご供花の御礼状の報告があった。

以上

### 公益社団法人日本女医会

## (( ( 理事会議事録 ) ))

### 2023年度第6回

- 日時 2024年1月21日(日)  
午後2時00分～午後4時00分
- 場所 ZOOMによるオンライン会議
- 出欠席者
  - 出席者
 

理事	前田佳子	青木正美
	藤谷宏子	磯貝晶子
	牛山元美	大谷智子
	木村友美	塚田篤子
	野村明子	樋渡奈奈子
	宮坂晴子	芳川た江子
  - 欠席者
 

監事	大関ひろ美
----	-------
- 出席者
 

理事	望月善子	監事	村上京子
----	------	----	------

### ●継続審議事項

#### 1. 第69回定時総会について (継続)

・ 芳川理事より、部会の報告があり、タクシーとホテルについて確認が行われた。

・ 前田会長より、前年同様、地方の役員用に1つホテルを決め、それ以外を希望する場合は各自予約することが確認された。

・ 藤谷副会長より、タクシーは浜松町駅の北口で拾うと良いなど、毎年の日本小児科医会の理事会が付近で開催されているので、二次情報を庶務部に伝えることになった。

・ 青木副会長より、前日のエクスカッション計画について発表があった。

・ その他、3月の総会案内資料案について、未決事項以外は、現在のところ問題ないことが確認された。

#### 2. 2024年度予算案について (承認)

・ 塚田理事より、前回の理事会時点からの変更点の説明と各部への確認が行われた。

・ 大谷理事、藤谷副会長より、小児救急小冊子(「どうしよう子どもの救急」)の在庫の用途について、提案が述べられた。

#### 3. 創立120周年記念事業について (承認)

塚田理事より、前回の理事会以降の寄附金明細と現在までの収支が報告された。

#### 4. 2024年度ブロック懇談会について (継続)

芳川理事より、引き続き会長が交渉中である旨が述べられた。

### ●審議事項

#### 1. 2024年度役員選挙について (継続)

前田会長より、前日発表された選挙告示について説明があった。また、現在外部監事である大関監事に再任の意思が確認され、承諾された。

#### 2. 女性の健康支援事業講演会について (承認)

前田会長より、追加になった講師と進行表の説明が行われた。

#### 3. 2024年度理事会開催日日程について (承認)

・ 芳川理事より、理事会開催日日程の確認が行われた。

・ 前田会長より、7/11～13に行われる西太平洋地域会議への参加の呼びかけがあった。

#### 4. 2023年11月・12月会計報告承認 (承認)

塚田理事より説明があり、2023年11月、及び12月の会計報告が承認された。

#### 5. 2023年度第5回理事会議事録承認 (承認)

藤谷副会長より説明があり、2023年度第5回理事会議事録が承認された。

#### 6. その他

1) 「医師・医学生署名をすすめる会」署名について (承認)

・ 前田会長より説明があり、協力が呼

びかけられると共に、日本女医会のホームページに掲載することが承認された。

#### 2) 「日本の女性医師デー」の登録について (継続)

・ 前田会長より、日本記念日協会の審査に合格したため、120周年関連イベントとして、今年の4/4から登録し、4/7の日曜日にイベントを実施したいという提案があり、承認された。

#### 3) ボランティア預金使用について (承認)

・ 大関監事より、現在670,555円あるボランティア預金を令和6年能登半島地震募金に使用してはどうかという提案があり、承認された。

### ●報告事項

#### 1. 各部、NC報告

##### 1) 庶務部報告

・ 芳川理事より、新入会員と会員動静についての報告があった。また、本年度は吉岡彌生賞、荻野吟子賞の応募が無かった旨の報告があった。

##### 2) 広報部報告

・ 樋渡理事より、会誌250号の印刷状況などの報告があった

##### 3) 学術部報告

大谷理事より、学術研究助成の応募状況についての報告があった。

##### 4) IT部報告

磯貝理事より、ソーシャルメディア運用規程の修正、講義・講演に係る成果物利用承諾書の修正、講義・講演に係るガイドラインの作成、講演会依頼状の修正が必要となった経緯と内容の説明があった。

##### 5) 寄附申込書兼振込用紙について

塚田理事より、新しい寄附申込書兼振込用紙が紹介された。

##### 6) ナショナルコーディネータ報告

前田会長より、西太平洋地域会議が開催されるセブ島の説明があり、2027年にオーストラリア女医会が100周年を迎え、次の開催国である旨の報告があった。

#### 2. 各委員会報告

##### 1) ダイバーシティ推進委員会

木村理事より、キャリア・シンポジウムの公開を1週間のアーカイブ配信にすることにより視聴者数が増加したため、次回も同様の方式にする旨の報告があった。

##### 2) 長寿社会福祉委員会

・ 芳川理事より、公開講演会のアンケート結果の報告があった。

・ 牛山理事より、講師の先生や関係者への感謝の言葉が述べられた。

##### 3) 小児救急事業委員会

藤谷副会長より、HPVワクチンキャッチアップ接種の最終年であるため、促進していきたい旨の報告があった

##### 4) HP制作委員会

前田会長より前回理事会以降の掲載報告があった。



3. 対外的団体活動

前田会長より以下の報告があった。

1) 国際婦人年連絡会

- ・今年度からオンラインセミナーが有料となった(800円)。
- 12/4「大軍拡が破壊するくらしと未

来」講師：群馬大学名誉教授・山田博文氏

-12/10「急激に変わる食のあり方」

講師：OK シードプロジェクト事務局長・印鑰智哉氏

・12/20に常任委員会が開催され、3月

にNYで開催されるCSW国連女性の地位委員会のサイドイベントの打ち合わせ経過が報告された。

2) 国連 NGO 国内女性委員会  
・1/18 第78回国連総会報告会

以上

## 第15回軽井沢セミナーのお知らせ

昨年4年ぶりに再開となった軽井沢セミナー。今年も昨年と同様、軽井沢プリンスホテルでセミナーを開催させていただきます。皆様のご参加をお待ちしております。

**日時** 2024年10月19日(土) 午後6時～

**会場** 軽井沢プリンスホテル(予定) 長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢 1016 電話 0267-42-1111

**講演会** 「痛みって何でしょうーすぐに役立つペインクリニックの基礎知識ー」

**講師** 青木クリニック 青木正美先生

**親睦会** 同会場にて(予定) 午後7時30分～9時

**会費** 20,000円(講演会のみ参加の場合は5,000円)

ご参加、ご宿泊の申し込みは同封のチラシにてお願い致します。

軽井沢セミナー同好会 会長 小関温子

## 会員動静

(2023年12月29日～2024年3月31日現在・敬称略)

	氏名	支部	卒年
入会	高橋志保子	埼玉	平成6
	大須賀方子	文京	平成元
	山中佳代	埼玉	平成6
	角銅しおり	福岡	平成5
	伊野美幸	港	昭和57
	小林知子	岡山	平成12
退会	14名		
物故	笹川美年子	大阪	昭和36
	清水いはね	栃木	昭和47
	佐久間和子	北海道	昭和26

## 寄附者一覧

(2023年12月～2024年3月末現在、敬称略)

以下のとおりお知らせいたします。

ご協力ありがとうございました。

山 梨 池田 康子  
大 阪 阪口 昌子  
都 下 東 瀬下由美子

### 創立百二十周年記念寄附者

神 奈 川 小関 温子  
神 奈 川 加納麻弓子

### 編集後記

2024年は明るく希望のある年であるよう願っていましたが、元旦からの能登の地震や翌日の空港での事故などで幕開けし、既に4か月経ちました。昨年5類になった新型コロナウイルス感染症などいろいろな感染症もまだまだ続いています。

さて、昨年のがわの国の出生数は前年に比べて5.1%減で75万8631人となり過去最少となりました。婚姻数も48万と減少し、新型コロナウイルスの影響で減少したまま回復していません。少子化対策は多方面で叫ばれていますが、なかなか効果が見えません。若い世代への経済的支援として不妊治療の保険適応や出産に対する補助も一つの解決策でしょう。しかし、何よりも将来への希望の持てる世界にするのが大切だと思います。元気で健康で活躍できる場を提供すること、子どもも成人も平和に過ごせることを目指し、女性医師だからこそできることを考えて日本女医会は次世代に続く活動を継続したいと思います。(藤谷宏子)

## 日本女医学会誌

復刊第251号 2024年5月1日発行

編集人 樋渡奈奈子 発行人 前田佳子  
制作 あづま堂印刷製

発行所 公益社団法人日本女医学会  
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-3-19  
ロワレール千駄ヶ谷20

TEL 03-6447-0820 FAX 03-6447-0821

http://www.jmwa.or.jp  
e-mail : office@jmwa.or.jp

